

決算補足説明資料

2022年度 第2四半期 業績概要

注意事項

- **当社は2022年度より地域別の情報（売上収益,受注）の算出根拠を、従来の仕向地（お客さまの所在地）別から当社グループ各社の所在地別に変更いたしました。これにより、2021年度の数値は変更後の情報に組み替えた上で算出しています。（P.21参照）**
- 本資料に記載されている業績見通し等に関する将来の予測は、当社が現時点で入手可能な情報と、合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績はさまざまな要因により、この見通しとは異なることがあります。実際の業績等に影響を与えうる重要な要因には、当社の事業領域を取り巻く国内外の経済情勢、当社製品・サービスに対する需要動向、為替・株式市場の動向などがあります。なお、業績に影響を与える要因はこれらに限定されるものではありません。
- 本資料に記載の数値は四捨五入にて表示しており、決算短信など他資料と異なる場合があります。
- 本資料の著作権は当社に帰属し、当社の事前の承諾なく複製または転用することを禁じます。

株式会社 安川電機 (TSE6506)

(対象期間：2022年3月1日～2022年8月31日)

目次

1. 2022年度 上期 連結業績

- 2022年度 上期 実績
- 主要事業の概要
- 事業セグメント別売上収益構成比
- 所在地別売上収益, 構成比
- 営業利益増減要因分析
- 2022年度 上期の取り組み

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

- 2022年度 通期 見通し
- 営業利益増減要因分析
- 2022年度 下期の取り組み
- 株主還元（配当金推移）

3. 参考資料

- 仕向先から所在地への変更による過年度の組替表示（売上収益,受注）
- 設備投資・研究開発費,為替レート,感応度
- B/S構造の推移
- 売上収益・営業利益推移
- 四半期売上収益推移
- 四半期受注推移

セグメント別事業概要

モーションコントロール

【主要製品】

- ・ ACサーボモータ、コントローラ
 - ・ リニアサーボ
 - ・ インバータ
 - ・ PMモータ
- など



ロボット

【主要製品】

- ・ 産業用ロボット
 - アーク・スポット溶接・塗装用途向け
 - FPD搬送・ハンドリング用途向け
 - ・ 半導体製造装置用ロボット
 - ・ バイオメディカル用途向けロボット
 - ・ 人協働ロボット
- など



システムエンジニアリング

【主要製品】

- ・ 鉄鋼プラント用電機システム
 - ・ 上下水道用電気計装システム
 - ・ 太陽光発電用パワーコンディショナ
 - ・ 大型風力発電用電機品
- など



鉄鋼プラント用
電機システム



上下水道用
電気計装システム



その他

- ・ 物流サービス
- など

1. 2022年度 上期 連結業績

2022年度 上期 実績

- ・ 米国を中心に需要拡大が続き、グローバルにEV化やリチウムイオン電池関連などの設備投資が継続
- ・ 中国はロックダウンから正常化に向かうも、本格的な回復に至らず
- ・ 営業利益は原材料費・物流費の高騰影響を受けるも、価格転嫁や為替の円安などにより増益

	2022年度	2021年度	前年同期比	
	上期 実績	上期 実績	増減額	増減率
売上収益	2,635億円	2,399億円	+236億円	+9.8%
営業利益	313億円	269億円	+44億円	+16.4%
税引前利益	335億円	278億円	+56億円	+20.2%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	237億円	212億円	+25億円	+12.0%

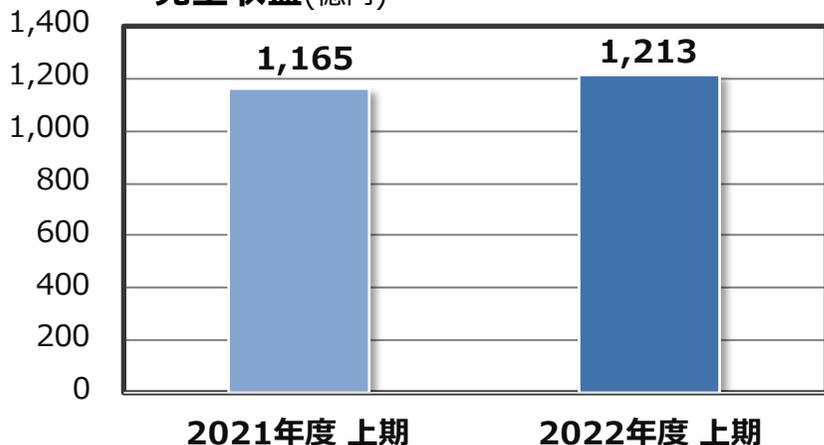
2022年度 上期 実績（セグメント別）

- ・ モーションコントロールは、米国を中心に設備投資が継続し増収も、中国の売上減少や原材料費・物流費の高騰影響などにより減益
- ・ ロボットは、EV化やリチウムイオン電池関連などの需要により大幅な増収増益

	2022年度 上期		2021年度 上期		前年 同期 比	
	実績	利益率	実績	利益率	増減額	増減率
(単位：億円)						
売上収益	2,635		2,399		+236	+9.8%
モーションコントロール	1,213		1,165		+48	+4.1%
ロボット	1,036		864		+172	+19.9%
システムエンジニアリング	246		271		▲25	▲9.3%
その他	140		99		+42	+42.1%
営業利益	313	11.9%	269	11.2%	+44	+16.4%
モーションコントロール	158	13.0%	197	16.9%	▲39	▲19.7%
ロボット	109	10.5%	70	8.1%	+39	+56.6%
システムエンジニアリング	10	3.9%	12	4.5%	▲3	▲21.1%
その他	4	2.5%	0	0.2%	+3	-
消去または全社	33	-	▲10	-	+43	-

主要事業の概要 モーションコントロール

売上収益(億円)



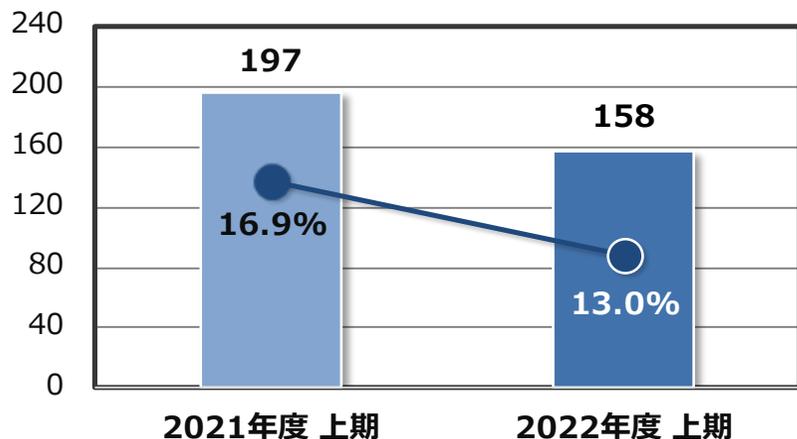
【売上収益】

- ACサーボは、米国・日本などで半導体・電子部品向けが高水準。中国ではEV化や成長市場での需要が堅調も、一般産業において設備投資が減少
- インバータは米国材料・ガス関連の設備投資が増加。中国ではリチウムイオン電池関連などの需要や、生産設備の自動化・省エネ化に伴う需要が伸長も、ロシアの影響を受け売上は減少

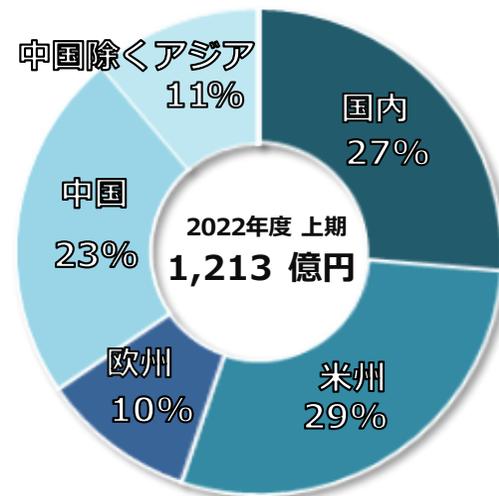
【営業利益】

- 中国の売上減少や、原材料費・物流費の高騰影響などにより減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)

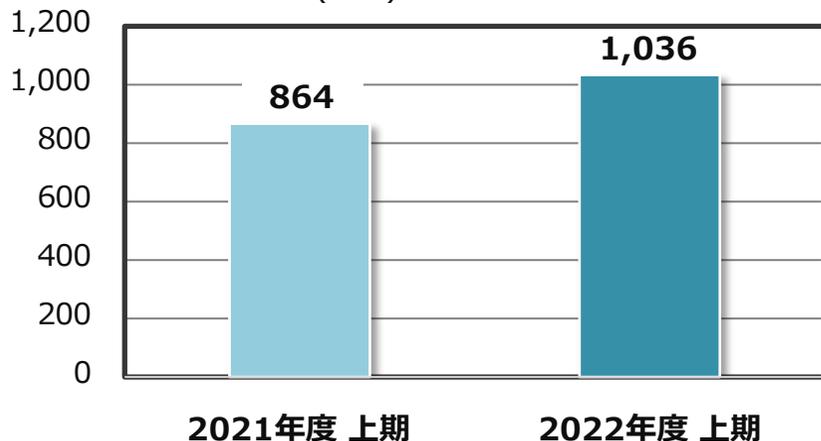


所在地別売上収益構成比



主要事業の概要 ロボット

売上収益(億円)



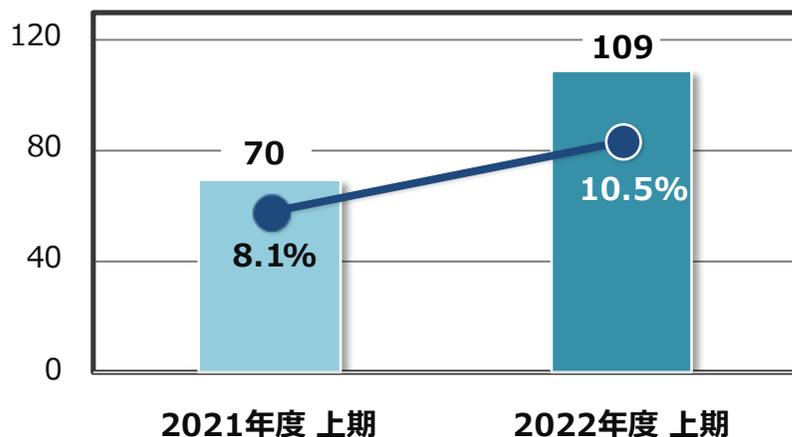
【売上収益】

- 自動車市場ではグローバルでEV化が加速し、リチウムイオン電池などの設備投資を拡大する動きが継続
- 半導体・電子部品市場の需要拡大により半導体ロボットも好調
- 食品市場などの一般産業分野にて人協働ロボット等の活用による生産の高度化・自動化を目的とした投資が積極化

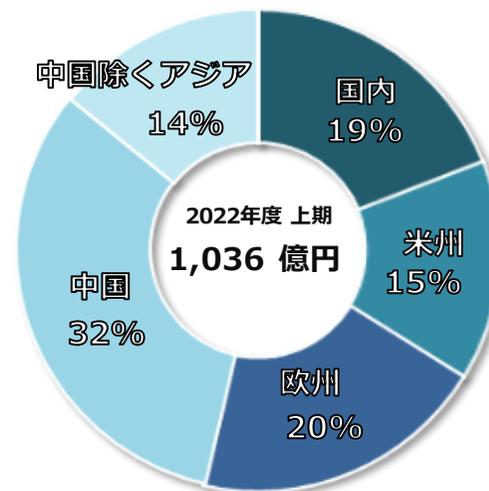
【営業利益】

- 売上の増加などにより営業利益は大幅に増加

営業利益(億円)・営業利益率(%)

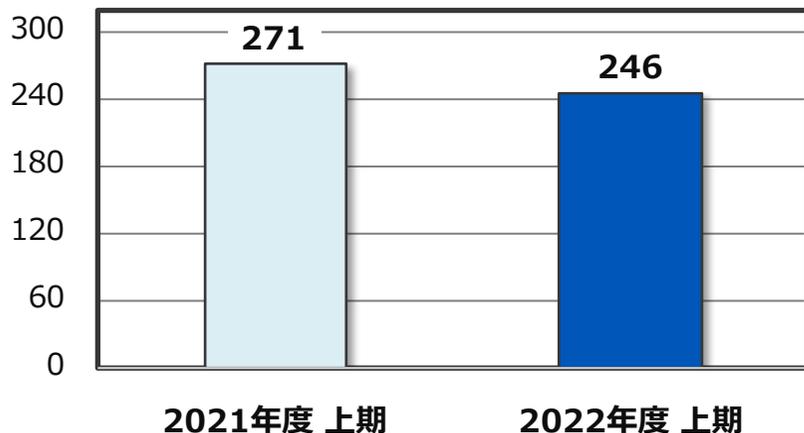


所在地別売上収益構成比



主要事業の概要 システムエンジニアリング

売上収益(億円)



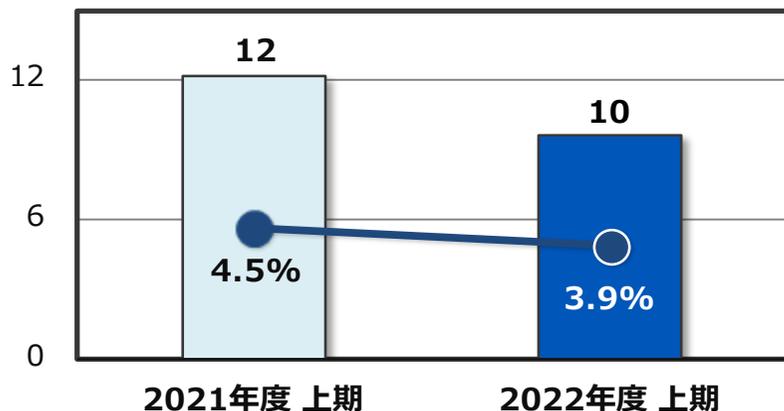
【売上収益】

- 国内の上下水道用電気システム関連やアジアなどでの港湾クレーン関連の売上が伸び悩み、売上収益は減少

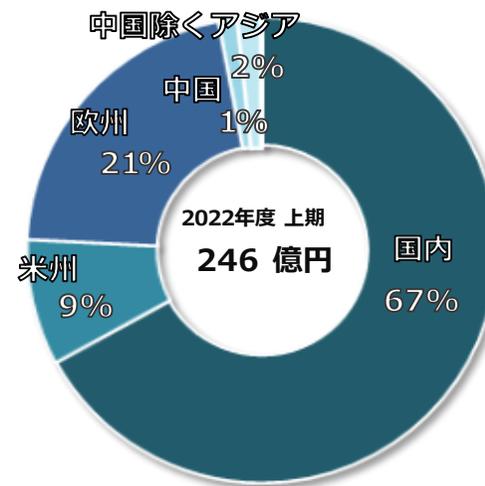
【営業利益】

- 経費抑制を徹底したものの、売上の減少などにより減益

営業利益(億円)・営業利益率(%)

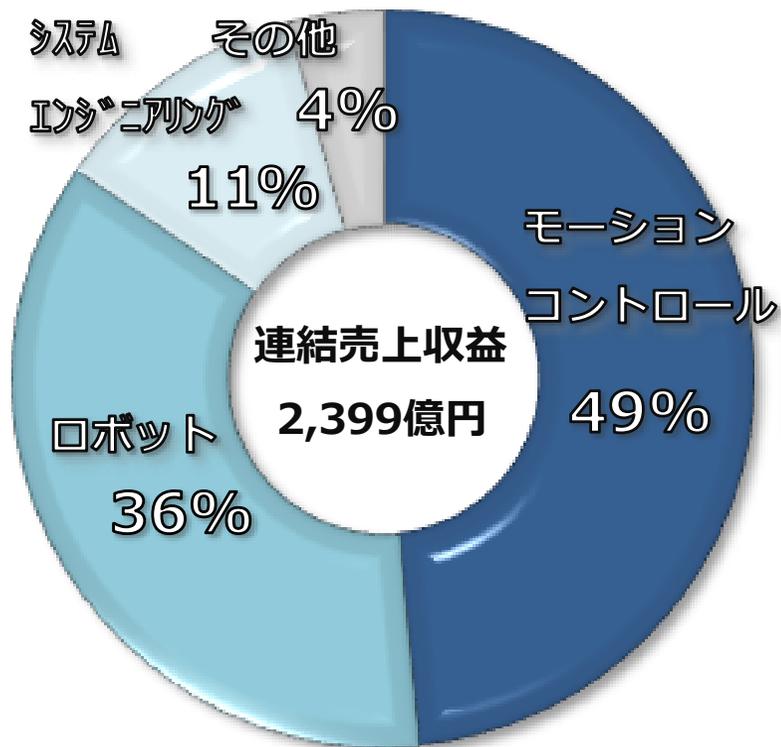


所在地別売上収益構成比

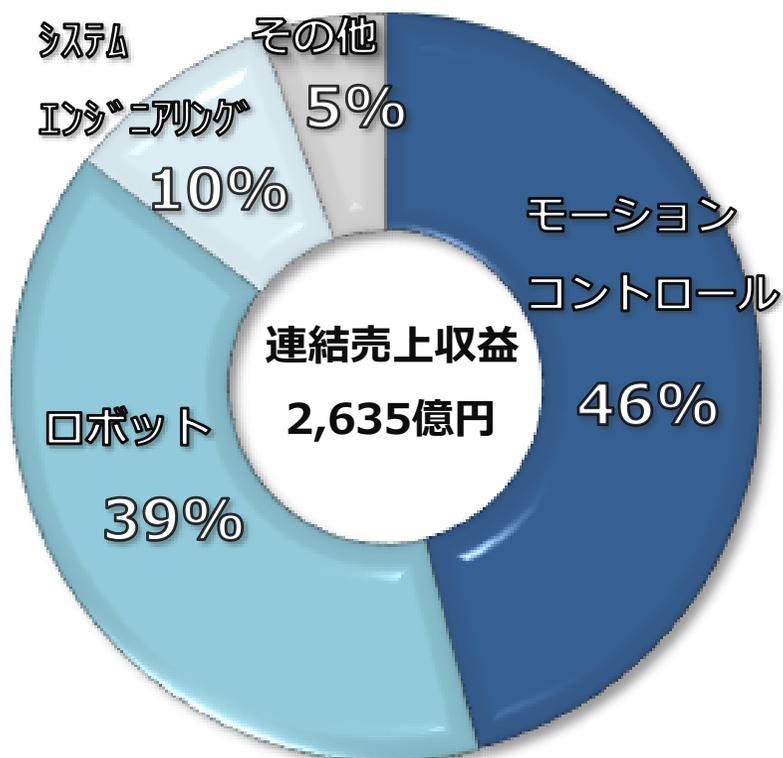


事業セグメント別売上収益構成比

2021年度 上期



2022年度 上期



所在地別売上収益（2021年度 上期 → 2022年度 上期）

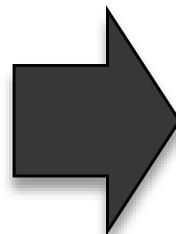
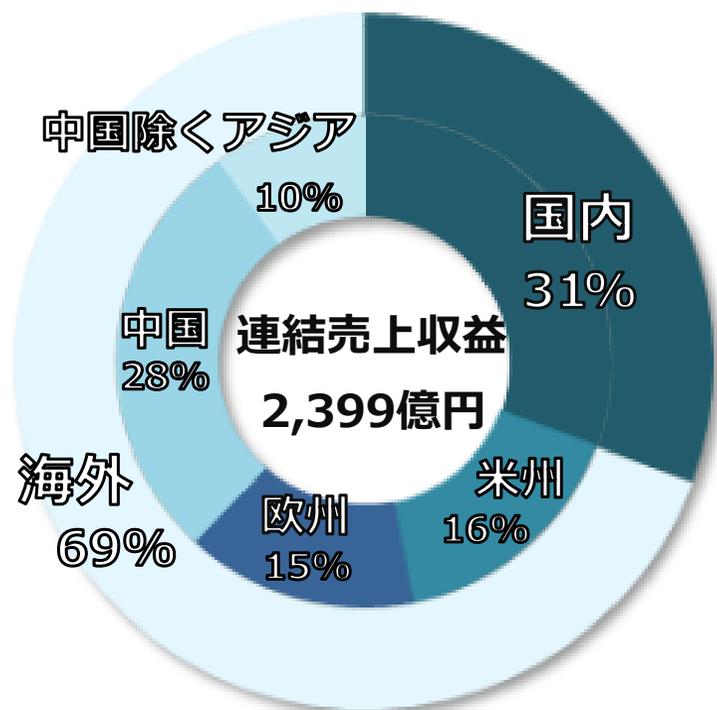
・米州,中国除くアジアなどが大幅に伸長し、中国のロックダウン影響をカバー

	2022年度 上期 実績	2021年度 上期 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上収益	2,635	2,399	+236	+9.8%
国内	777	735	+41	+5.6%
海外	1,859	1,664	+195	+11.7%
米州	526	390	+136	+34.8%
欧州	382	362	+20	+5.5%
中国	664	676	▲11	▲1.7%
中国除くアジア	287	236	+50	+21.4%

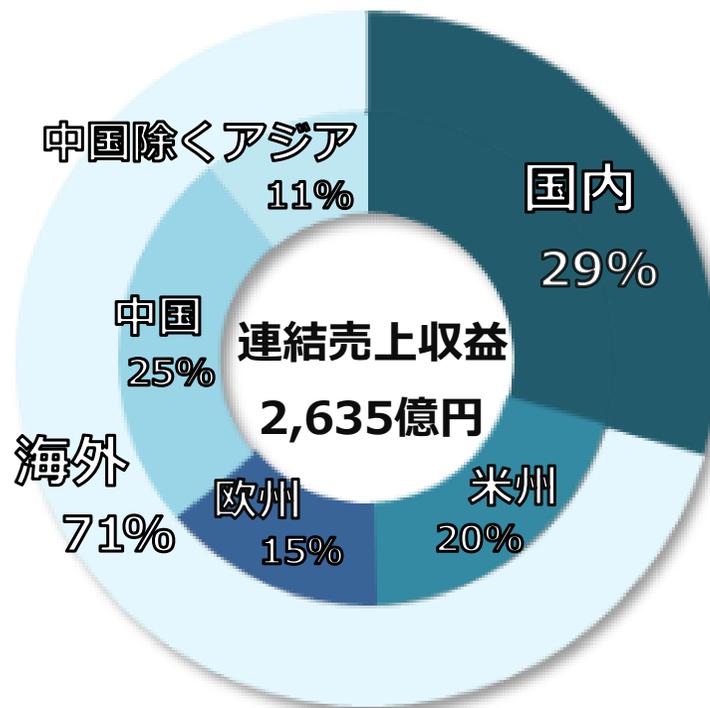
[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

所在地別売上収益構成比

2021年度 上期



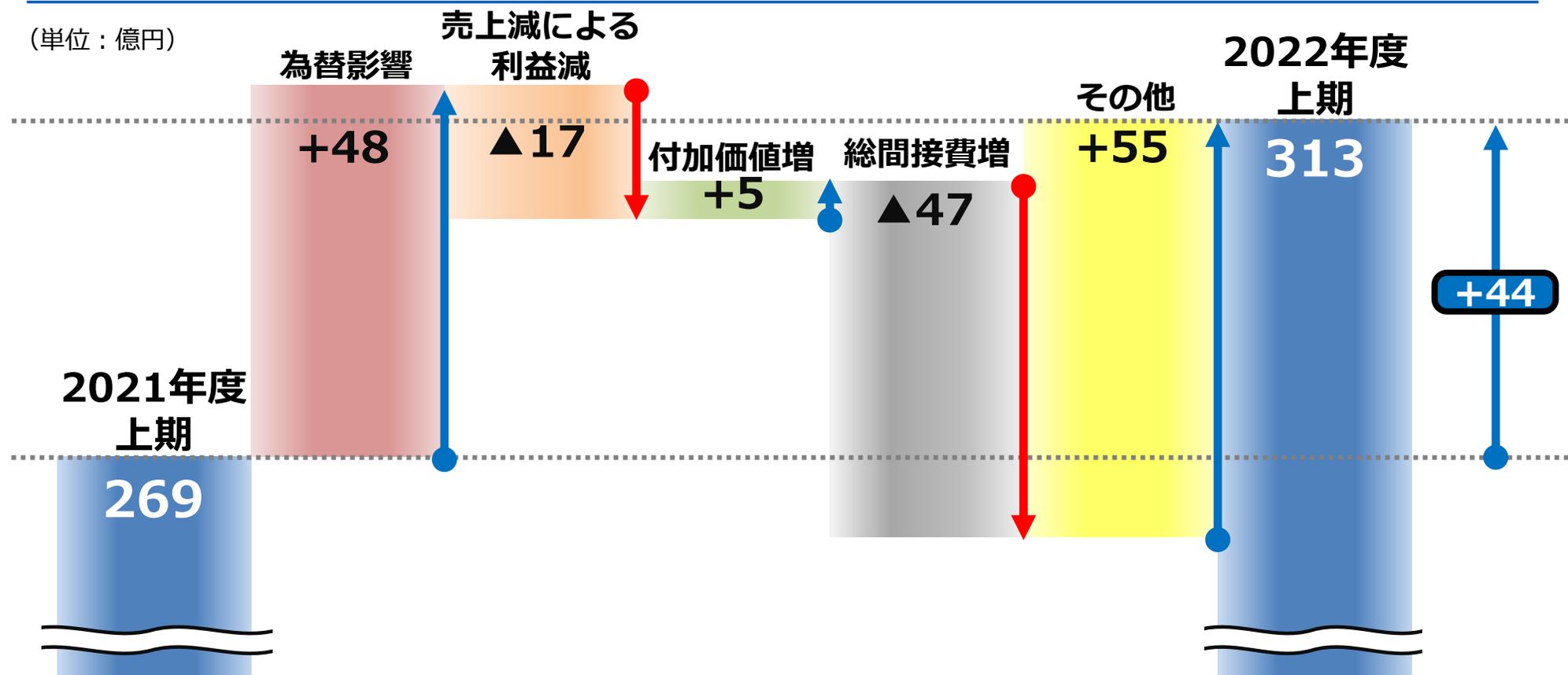
2022年度 上期



[注] 欧州には、中近東およびアフリカを含む

営業利益増減要因分析（2021年度 上期→ 2022年度 上期）

(単位：億円)



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 22	▲ 36	▲ 18	▲ 13	+ 7
ロボット	+ 27	+ 28	+ 11	▲ 26	▲ 0
システムエンジニアリング	▲ 0	▲ 13	+ 4	+ 5	+ 1
その他	+ 0	+ 4	+ 8	▲ 14	+ 47

2022年度 上期の取り組み

▶ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

→ 開発力の強化

- ・ YDX-II^{*1}のPLM^{*2}再構築による生産・販売・サービスを見据えた開発プロセスの強化

→ 生産力の強化

- ・ 「安川（常州）機電一体化系統有限公司」稼働による基板内製化拡大と付加価値取込み
- ・ 安定供給の実現に向けた部品在庫水準・保有ルールの策定および部品の集中管理拡大

→ 販売力の強化

- ・ 人協働ロボットの用途別パッケージ(パレタイジングなど)の充実による拡販強化
- ・ 人と同じ作業ペースで重量物のハンドリングが可能な可搬質量30kgの人協働ロボットの販売開始(2022年8月)

▶ デジタル経営の推進

- ・ サプライチェーン分析情報（経営・生産・販売・調達）の見える化推進

▶ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・ グループ経営理念の理解深化を狙った階層別研修プログラムの実行
- ・ マテリアリティに関するKPIの進捗をYASKAWAレポート2022にて開示(2022年9月)

*1 YASKAWA digital transformationの略。YDX-Iでは、経営資源の可視化・一元化とその最適配置を目指した活動を実施。
YDX-IIでは、PLM再構築をベースとしたデータ連携による全体最適化を実現。

*2 Product Lifecycle Management



MOTOMAN-HC30PL

2. 2022年度 通期 連結業績見通し

2022年度 通期 見通し

- ・ 好調な受注の継続に加え、生産・調達の強化により売上収益を上方修正
- ・ 営業利益は原材料費や物流費の高騰影響により、下方修正

	2022年度 見通し	2021年度 実績	前年同期比		2022年度 前回見通し [※]
			増減額	増減率	
売上収益	5,500億円	4,791億円	+709億円	+14.8%	5,250億円
営業利益	700億円	529億円	+171億円	+32.4%	720億円
税引前利益	720億円	554億円	+166億円	+30.0%	740億円
親会社の所有者に帰属する 当期利益	515億円	384億円	+131億円	+34.3%	525億円

※ 2022年4月8日 FY21 4Q決算発表時

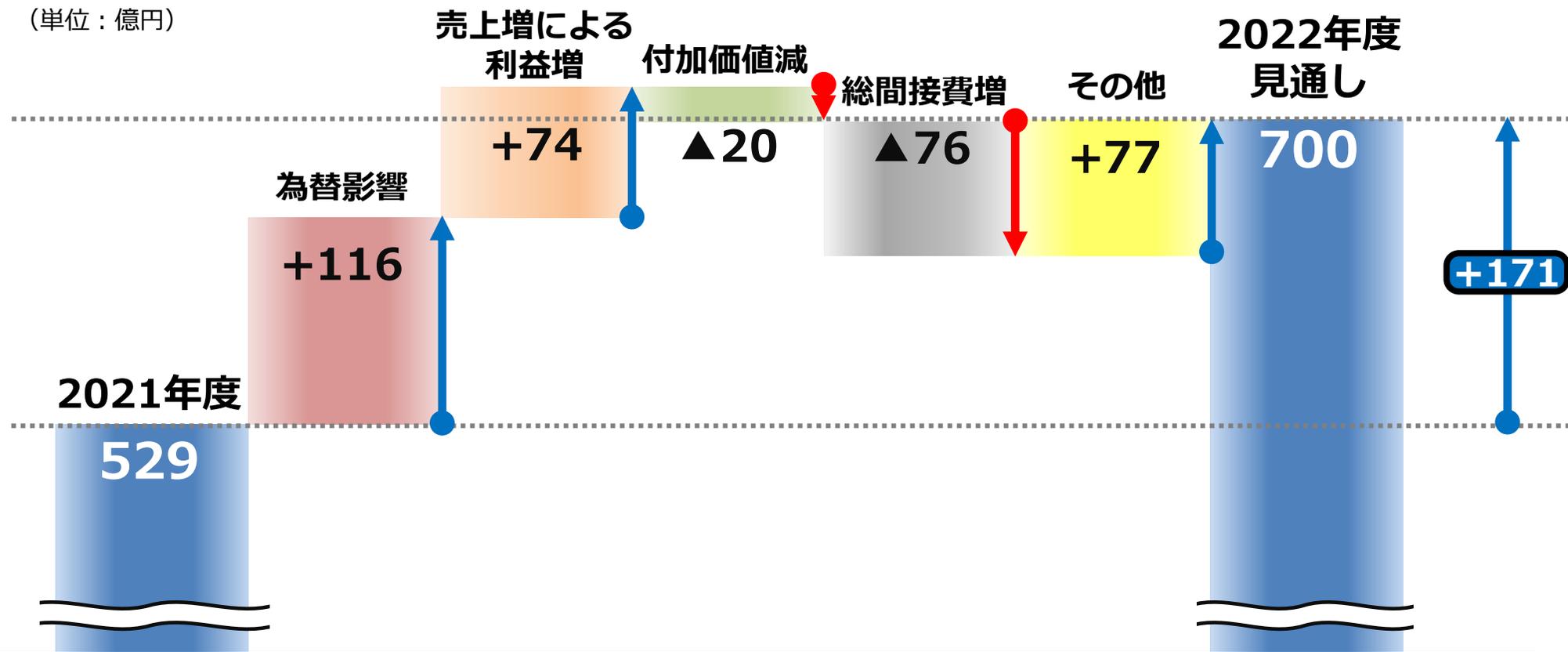
2022年度 通期 見通し (セグメント別)

	2022年度		2021年度		前年同期比		2022年度	
	見通し	利益率	実績	利益率	増減額	増減率	前回見通し*	利益率
(単位：億円)								
売上収益	5,500		4,791		+709	+14.8%	5,250	
モーションコントロール	2,500		2,273		+227	+10.0%	2,470	
ロボット	2,255		1,787		+468	+26.2%	2,040	
システムエンジニアリング	490		523		▲33	▲6.2%	530	
その他	255		209		+46	+22.1%	210	
営業利益	700	12.7%	529	11.0%	+171	+32.4%	720	13.7%
モーションコントロール	354	14.2%	382	16.8%	▲28	▲7.2%	453	18.3%
ロボット	292	12.9%	172	9.7%	+120	+69.3%	264	12.9%
システムエンジニアリング	22	4.5%	21	4.1%	+1	+3.4%	21	4.0%
その他	14	5.5%	4	1.8%	+10	+264.5%	3	1.4%
消去または全社	18	-	▲51	-	+69	-	▲21	-

※ 2022年4月8日 FY21 4Q決算発表時

営業利益増減要因分析（2021年度 → 2022年度見通し）

（単位：億円）



内訳	為替影響	売上増減による利益増減	付加価値増減	総間接費増減	その他
モーションコントロール	+ 62	▲ 11	▲ 60	▲ 39	+ 20
ロボット	+ 54	+ 101	+ 31	▲ 65	▲ 0
システムエンジニアリング	▲ 0	▲ 21	+ 3	+ 21	▲ 2
その他	+ 0	+ 6	+ 6	+ 8	+ 59

2022年度 下期の取り組み

➤ “i³-Mechatronics”のビジネスモデル確立

➔ 生産力の強化

- ・内製化拡大・付加価値向上を目指したロボットの新機械加工工場の建設着手（北九州市本社事業所）
- ・インバータ事業・システムエンジニアリング事業におけるマザー工場としての機能強化に向けた事業所再編の計画着手（福岡県行橋市）

➔ 販売力の強化

- ・i³-Mechatronicsコンセプトによる自動車OEMとバッテリーメーカーへのアプローチ強化

➤ デジタル経営の推進

- ・データに基づく持続的な開発・生産・販売・サービスの改善サイクル構築に向けたYDX-IIの加速

➤ サステナブルな社会/事業に寄与する経営基盤の強化

- ・グループ経営理念の理解深化を目的とした人財育成プログラムの実行強化

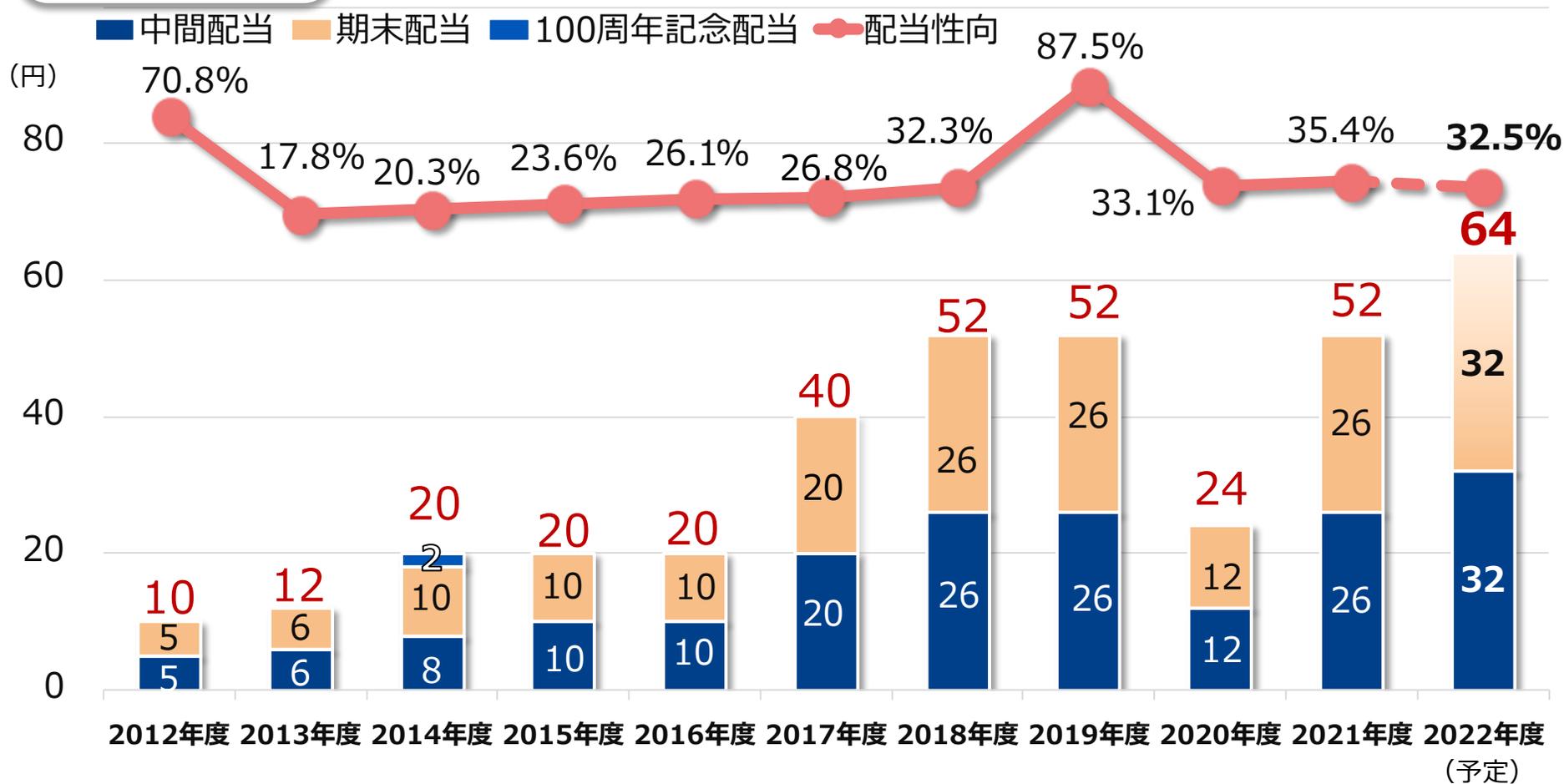


YDX-IIで目指すPLM再構築をベースとしたデータ連携

株主還元（配当金推移）

・ 2022年度の配当予想は据え置き、前年度から12円増配となる年間64円/株を予定

配当金推移



3. 参考資料

仕向先から所在地への変更による過年度の組替表示（売上収益・受注, 2021年度実績）

2021年度（仕向先から所在地への変更後）									変更 影響額 （通期）
（単位：億円）	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期		
売上収益	1,190	1,209	2,399	1,175	1,217	2,392	4,791		-
国内	358	378	735	364	402	766	1,502		+20
海外	832	831	1,664	810	815	1,625	3,289		▲20
米州	184	206	390	206	211	417	807		+54
欧州	175	187	362	194	182	376	737		+20
中国	357	318	676	288	297	585	1,261		▲33
中国除くアジア	116	120	236	122	126	248	484		▲57
その他	0	0	0	0	0	0	0		▲5
2021年度（仕向先から所在地への変更後）									変更 影響額 （通期）
（単位：億円）	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期		
受注	1,391	1,377	2,768	1,430	1,529	2,960	5,728		-
国内	388	440	828	506	487	993	1,821		+48
海外	1,003	937	1,940	925	1,042	1,967	3,907		▲48
米州	239	252	491	257	315	572	1,063		+93
欧州	230	220	450	229	253	482	932		+29
中国	395	336	731	299	322	621	1,352		▲72
中国除くアジア	139	130	268	140	152	292	560		▲98
その他	0	0	0	0	0	0	0		+0

設備投資・研究開発費, 為替レート, 感応度

設備投資・研究開発費の状況

(単位：億円)

	2020年度 (実績)	2021年度 (実績)	2022年度 (計画)
設備投資額	227.9	241.8	290.0
減価償却費	160.9	174.8	180.0
研究開発投資	178.5	181.8	190.0

為替レート

※ 為替レートは、期中平均レートを記載

(単位：円)

	2020年度 (実績)			2021年度 (実績)			2022年度 (想定)		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期 (実績)	下期	通期
対 米ドル	107.2	104.7	106.0	109.5	113.5	111.5	129.9	140.0	134.9
対 ユーロ	120.4	125.3	122.8	130.8	130.1	130.4	136.8	140.0	138.4
対 元	15.23	15.87	15.55	16.92	17.77	17.33	19.59	20.00	19.80
対 ウォン	0.089	0.093	0.091	0.097	0.096	0.096	0.102	0.100	0.101

為替感応度

(単位：億円)

	1%変動による影響額目安 (2022年度_通期 想定)	
	売上収益	営業利益
米ドル	11.8	2.5
ユーロ	7.8	1.8
元	14.6	4.3
ウォン	2.9	1.7

[注] 通期における為替相場の安定が前提

B/S構造の推移

2022年2月28日時点

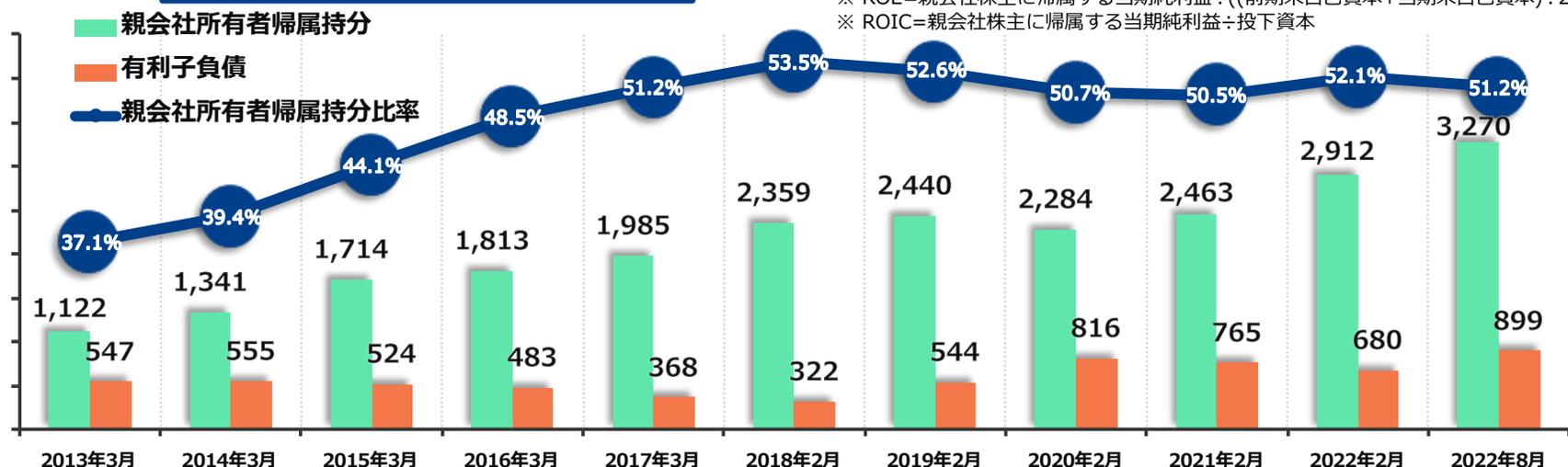
- 親会社所有者帰属持分比率 52.1%
- 親会社所有者帰属持分 2,912億円
- 有利子負債 680億円
- D/Eレシオ 0.23
(ネットD/Eレシオ) 0.04
- 棚卸資産 1,318億円
(回転月数) (3.3ヶ月)
- ROE 14.3%
- ROIC 13.3%

2022年8月31日時点

- 親会社所有者帰属持分比率 51.2%
- 親会社所有者帰属持分 3,270億円
- 有利子負債 899億円
- D/Eレシオ 0.28
(ネットD/Eレシオ) 0.09
- 棚卸資産 1,678億円
(回転月数) (3.5ヶ月)

※ 有利子負債はリース債務を含む
 ※ 棚卸資産回転月数の計算には棚卸資産の期末値を使用
 ※ ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷((前期末自己資本+当期末自己資本)÷2)
 ※ ROIC=親会社株主に帰属する当期純利益÷投下資本

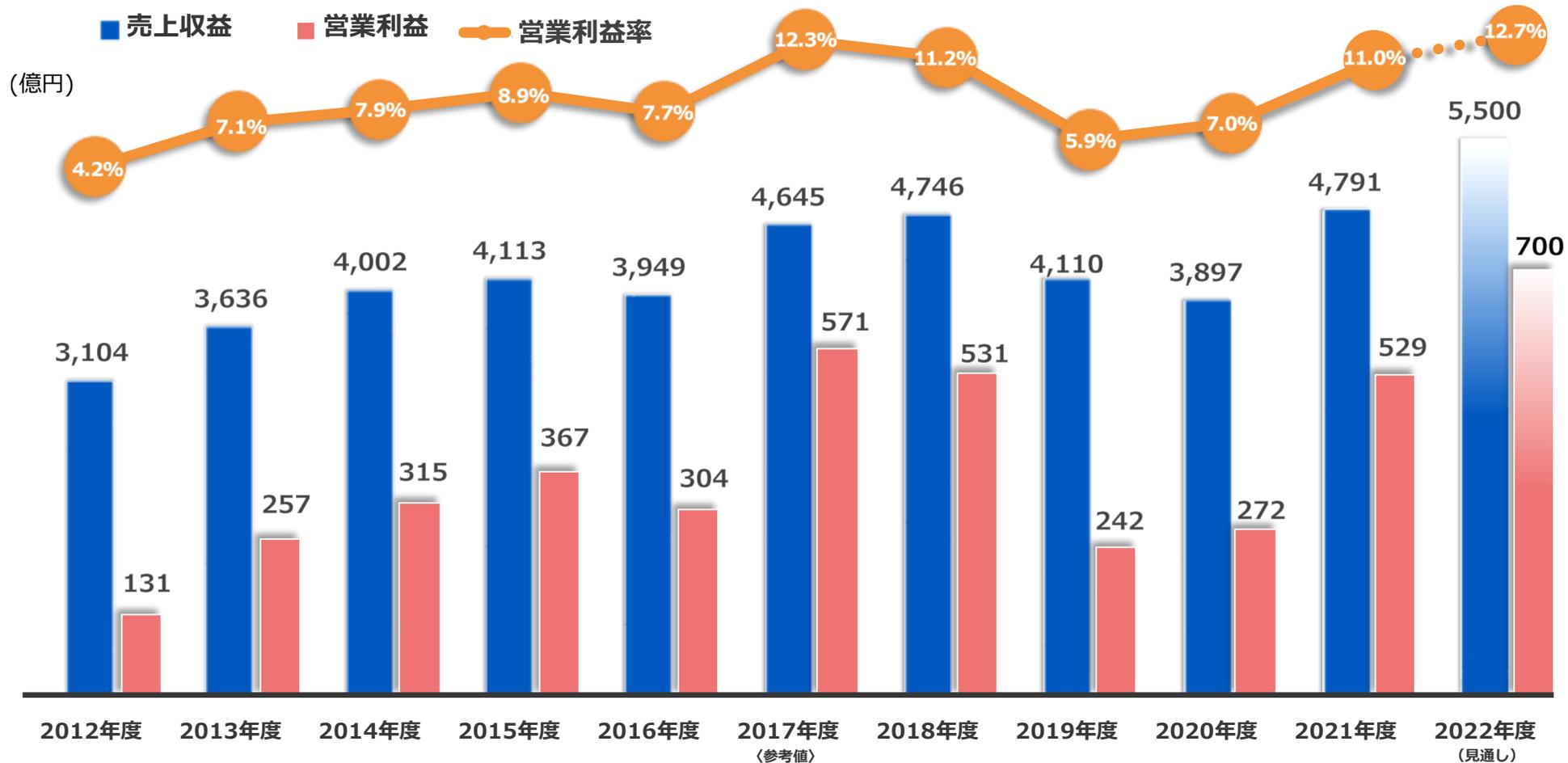
(億円)



	2013年3月	2014年3月	2015年3月	2016年3月	2017年3月	2018年2月	2019年2月	2020年2月	2021年2月	2022年2月	2022年8月
営業CF	246	240	290	320	338	461	343	215	396	492	28
投資CF	▲ 181	▲ 169	▲ 279	▲ 224	▲ 189	▲ 189	▲ 271	▲ 206	▲ 96	▲ 242	▲ 75
フリーCF	66	70	11	95	148	272	72	8	300	251	▲ 47

[注] 2018年2月までのデータは日本基準にて記載

売上収益・営業利益推移（2012年度～2022年度見通し）



Challenge 100 Realize 100 Dash 25 Challenge 25 Plus

中期経営計画

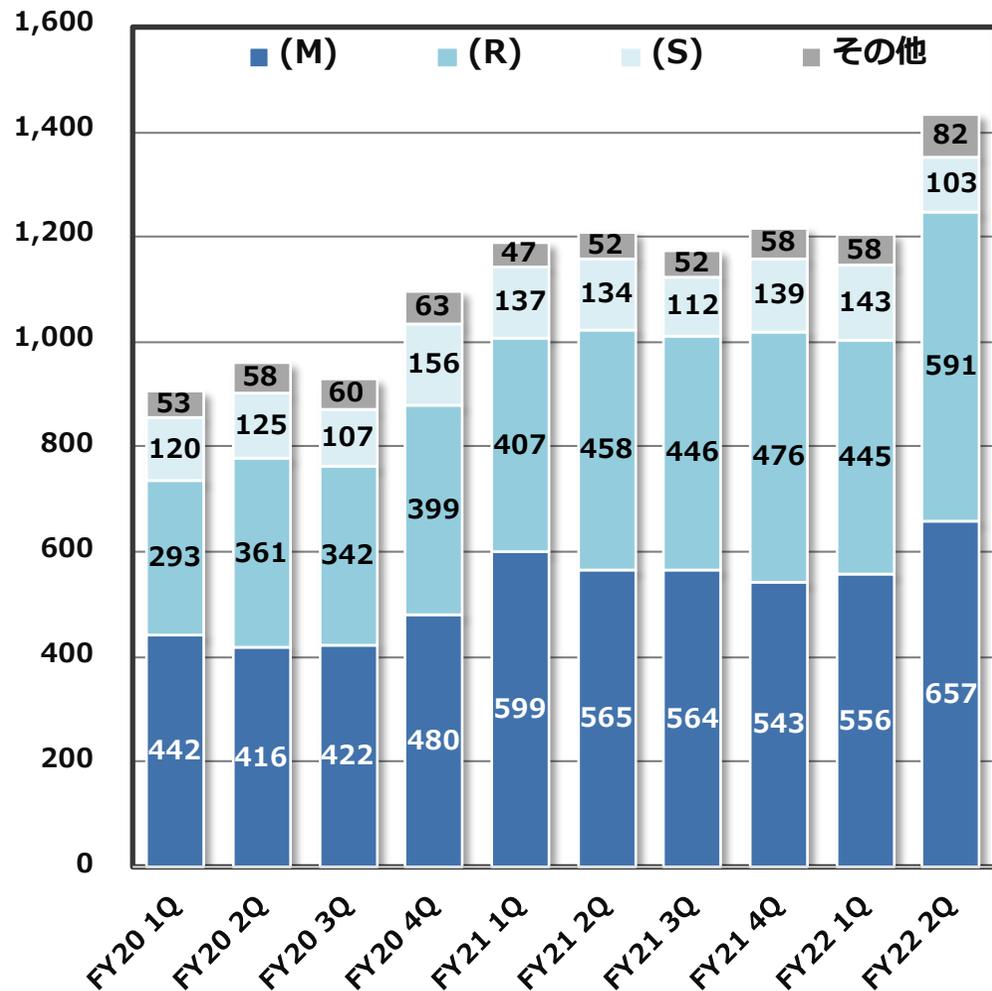
[注1.] 2017年度までのデータは日本基準にて記載

[注2.] 2017年度通期実績は、対象期間を2017年3月21日～2018年3月20日に置き換えた〈参考値〉にて記載

四半期売上収益推移

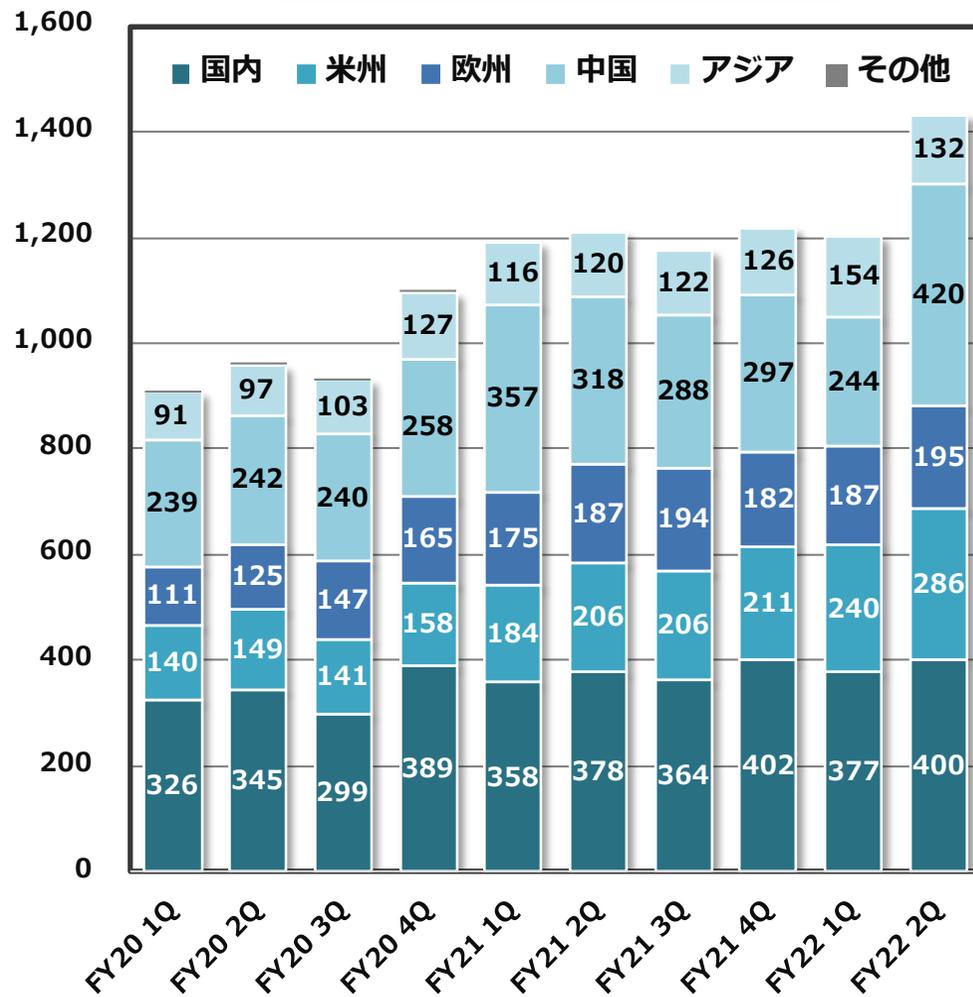
セグメント別

(億円)



所在地別

(億円)

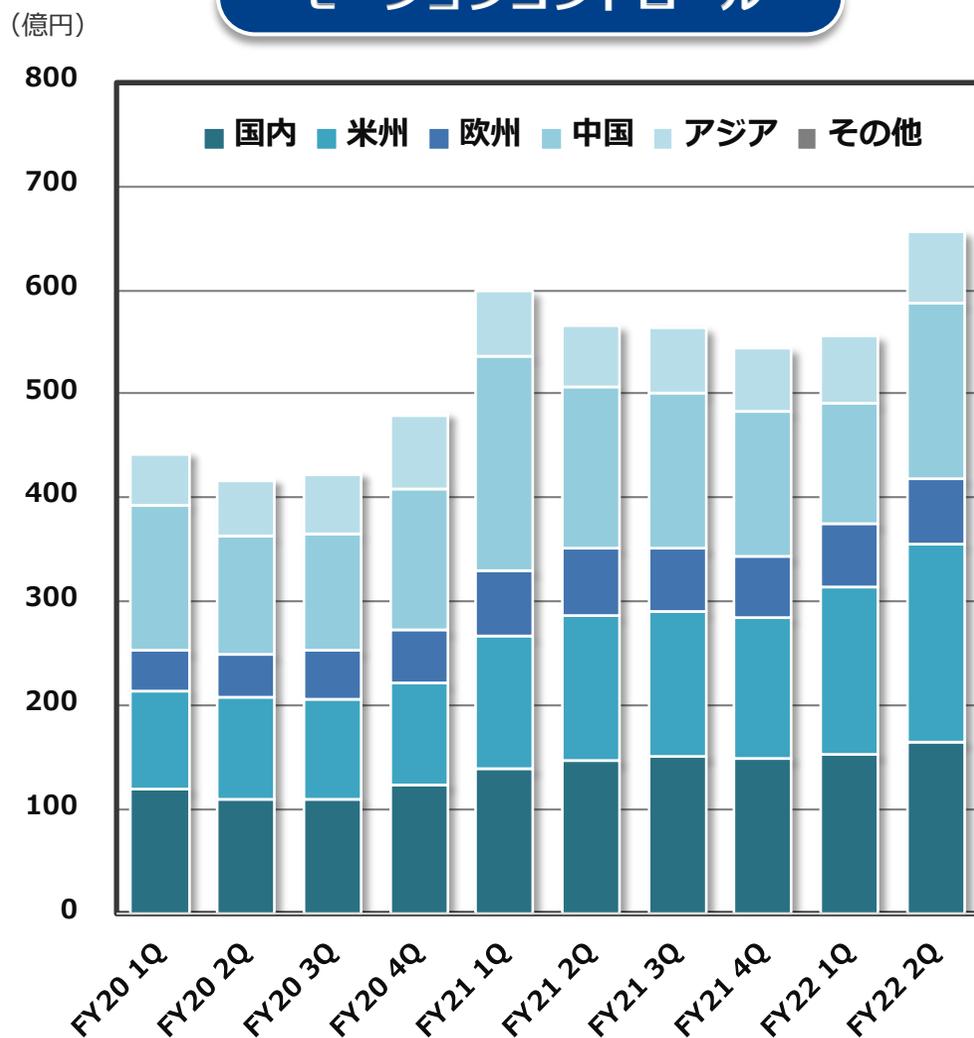


[注.] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

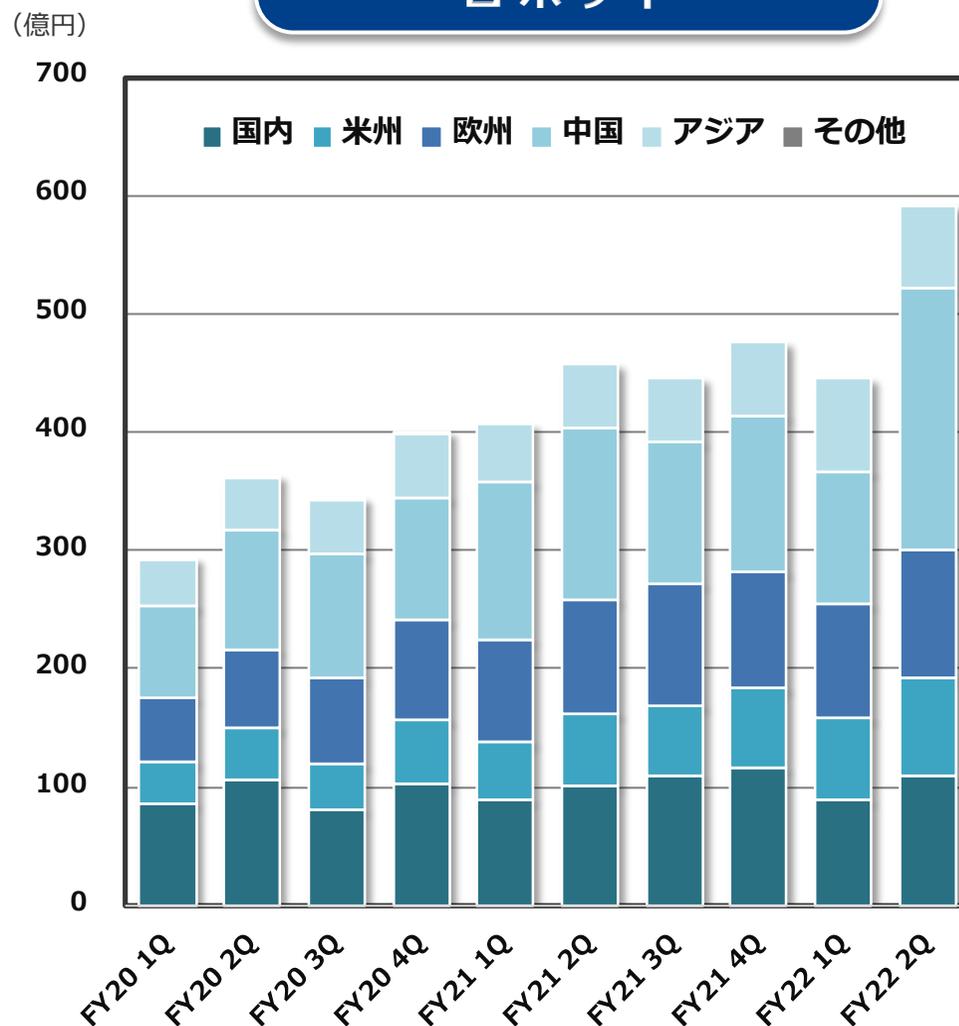
[注.] 所在地別情報のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載

四半期売上収益推移

モーションコントロール



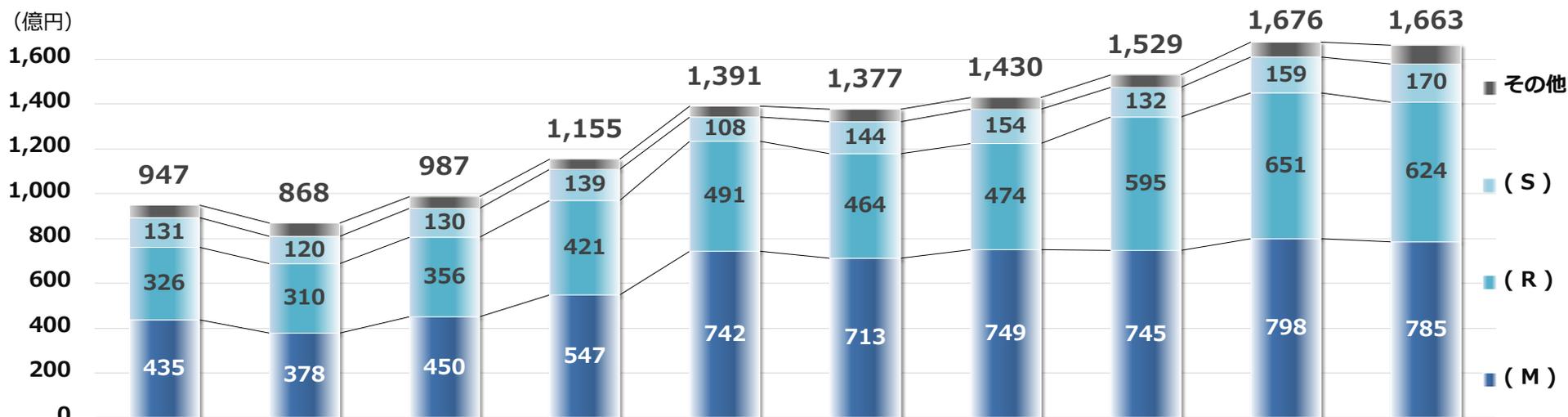
ロボット



[注.] 地域別売上収益のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載

四半期受注推移（セグメント別）

※為替は期中平均レートを使用

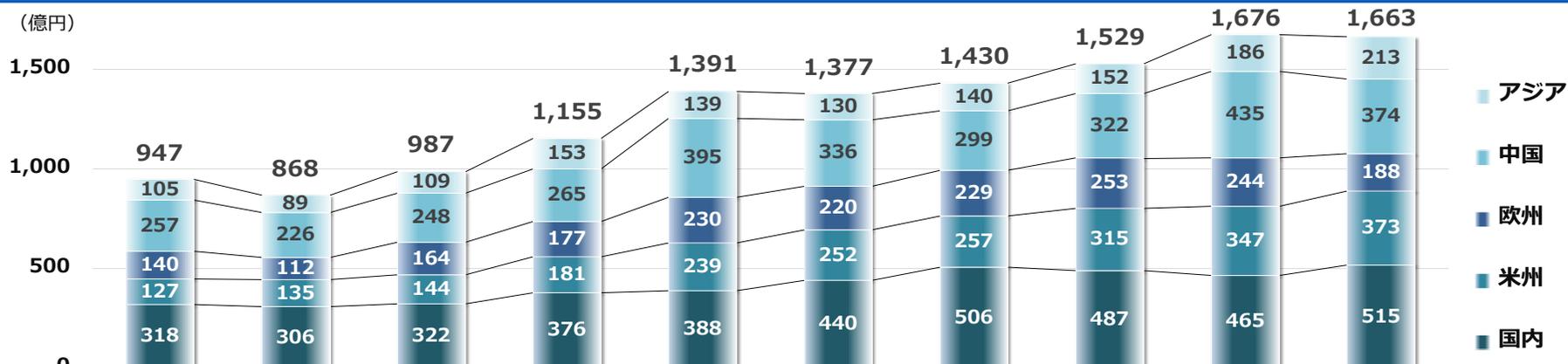


会社	YoY	FY2020				FY2021				FY2022	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
全社	YoY	▲12%	▲14%	▲0%	+20%	+47%	+59%	+45%	+32%	+21%	+21%
	QoQ	▲1%	▲8%	+14%	+17%	+20%	▲1%	+4%	+7%	+10%	▲1%
	(M)	▲8%	▲14%	+2%	+26%	+70%	+89%	+67%	+36%	+7%	+10%
YoY	(R)	▲18%	▲16%	▲2%	+23%	+51%	+50%	+33%	+41%	+33%	+34%
	(S)	▲13%	▲14%	▲1%	+15%	▲18%	+20%	+18%	▲5%	+48%	+18%
	(M)	+0%	▲13%	+19%	+22%	+36%	▲4%	+5%	▲1%	+7%	▲2%
QoQ	(R)	▲4%	▲5%	+15%	+18%	+17%	▲5%	+2%	+25%	+9%	▲4%
	(S)	+8%	▲8%	+8%	+7%	▲23%	+34%	+6%	▲14%	+20%	+7%
	為替レート	円/ドル	107.6	106.8	105.2	104.3	109.0	110.1	112.5	114.6	124.2
	円/ユーロ	117.9	122.8	124.0	126.6	130.7	130.9	130.5	129.7	134.3	139.3

[注.] 表記：(M) = モーションコントロール, (R) = ロボット, (S) = システムエンジニアリング

四半期受注推移 (所在地別)

※為替は期中平均レートを使用



		FY2020				FY2021				FY2022	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q
全社	YoY	▲12%	▲14%	▲0%	+20%	+47%	+59%	+45%	+32%	+21%	+21%
	QoQ	▲1%	▲8%	+14%	+17%	+20%	▲1%	+4%	+7%	+10%	▲1%
YoY	国内	▲3%	▲20%	▲11%	+1%	+22%	+44%	+57%	+30%	+20%	+17%
	米州	▲28%	▲28%	▲16%	+1%	+88%	+87%	+78%	+74%	+45%	+48%
	欧州	▲27%	▲11%	+2%	+39%	+64%	+96%	+40%	+43%	+6%	▲15%
	中国	▲1%	+13%	+28%	+62%	+54%	+48%	+20%	+21%	+10%	+12%
	アジア	▲12%	▲21%	+8%	+31%	+32%	+46%	+29%	▲1%	+34%	+64%
QoQ	国内	▲15%	▲4%	+5%	+17%	+3%	+13%	+15%	▲4%	▲5%	+11%
	米州	▲29%	+6%	+7%	+26%	+32%	+5%	+2%	+23%	+10%	+8%
	欧州	+10%	▲20%	+46%	+8%	+30%	▲4%	+4%	+10%	▲4%	▲23%
	中国	+57%	▲12%	+10%	+7%	+49%	▲15%	▲11%	+8%	+35%	▲14%
	アジア	▲10%	▲15%	+22%	+41%	▲9%	▲6%	+8%	+9%	+22%	+15%

[注.] 地域別受注のうち、2020年のデータは仕向先別にて記載

YASKAWA